

<http://www.japanplatform.org/we/index.html>

「創り出す平和」の実現に向けて

「国際貢献のための人材育成講座2007」始まる



〔実施概要〕

日時：2007（平成19）年 7月 7日（土）13：30 ～ 15：00

場所：広島YMCA

参加：29名

戦争の惨禍と復興を象徴する原爆ドームがある広島から世界の平和構築に向けて動き出すための知恵と勇気を一緒に学びませんか...との問いかけに、国際協力に関心のある県民のボトムアップを目的として、主に大学と連携して、より長期的な視点で若い人材を発掘していくことに力点を置いていきたいと考え、今年度はより大学との連携も深めた形で、昨年度に引き続きより実践的で高度な内容の講座を設定して実施する。

併せて、ひろしま版プラットフォームの構築に向け、教育機関、社会教育団体、NGO、県民等の国際貢献活動への主体的な参加促進を図る『ひろしま国際貢献「We」プロジェクト』の一環として、その活動の基礎となる実践情報を習得する機会提供として来年1月未までに県内外の有識者や活動家らを招き、16講座を開催する。

講師：川村健一氏（広島経済大学 教授）

〔テーマ〕

平和へのプロセス（前期）【記念講演】「今、社会から求められる国際貢献とは」

〔内容〕

近年、日本ではキレる子どもが多くなってきた。その理由の一つとして、子どもの脳の前頭葉の部分が小さくなってきたからではないかと考えられている。人間の脳は、自分と他人・自然との関係性を作るプロセスの中で発達するが、現在は便利になりすぎてその関係性が作れない環境になってきている。その対策として、農業のようなモノを作るという作業が、自分と自然との関係性を見つめるプロセスとなり、より子どもの脳を発達させることができる。国際貢献も同様である。

プロジェクトの対象地である地域が発展するかどうかは、現地の人と＜私＞との関係性を持つことができるかどうかにある。そのことを教えてくれたのは、恩師であるカールホッジ先生、そしてアラビア半島の灌漑事業を始めとする数多くの海外プロジェクトであった。国際貢献プロジェクトは、支援する側がやってあげるという姿勢ではなく、現地の人が自分たちにとって何の意味があるのかを理解し、最終的にビジネスとして成立することで産業連関（Product in and out）を果たすことができるかどうかである。それらを達成することによって、現地の人が本当の意味で自分たちに誇りをもてるようになるし、持続可能なコミュニティが構築できるのである。

〔講師プロフィール〕

1949年生まれ、広島市出身。73年京都大学工学部卒業後、フジタ工業株式会社（現株式会社フジタ）に入社、87年より米国駐在。91年フジタリサーチを設立し95年より同社社長、以降要職を歴任し02年(株)フジタを退社。中国総合研究センター客員研究員、広島経済大学客員教授を経て現職。（特活）サステナブルコミュニティ研究所所長。

〔受講者感想〕

川村先生の講演を聞き、世界の人々との人間関係、または身の回りの人間関係を考えるとき、大切なことは、自分の持っているモノを愛し、それに対して誇りを持ち、他人とそれを共有することだと思った。だから、世界に目を向けるのも大切なことだが、まず自分の近くにいる家族や友達、地元の自然などに誇りを持ち、みんなとそれを共有していくことが大切だと思った。国際関係を考える上での基礎を学ぶことができた。

【広島修道大学1年：富樫裕子】